

### 2010年10月現在アルミ缶買い取り価格／キログラム

場所	店名	価格	電話番号
大阪市 浪花区	金城商店	¥100	06-6631-2329
//	文本商店	¥100	06-6631-4759
//	吉田商店	¥100	
大阪市 西成区	山田リサイクル	¥100	06-6631-4649
//	中島	¥100	
東大阪市	北摂商事	¥90	
大東市	木下	¥90	090-2705-1655
八尾市	東洋金属	¥90	
//	中島・山田	¥100	※出張買い付け
堺市	米田商店	¥90	

※最大のアルミ輸出国である中国の輸出がやや減少しており、価格は下がり気味の傾向にあります。なお価格は日々流動しています。  
 ※久し振りの発行で各業者の情報が乏しくて、申し訳ありません。  
 ぜひ仲間のみなさんから情報をお願いします。  
 080-5343-2602 和由まで

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2011年 1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

# エエカマ

「アルミ缶の詩」につづく  
**創刊号**

編集 集：上田假奈代（ココルーム）  
 安藤久雄  
 デザイン：境隆太  
 発行人：和由富夫  
 協力：NPO金ヶ崎支援機構  
 大阪市立大学都市研究ラザ  
 NPOココルーム

## 「私の故郷釜ヶ崎」

### 中尾良作



釜ヶ崎のみなさんこんにちは。私は4年ほど前、西成の労働福祉センターで働かせていただいております。中尾良作と申します。

釜ヶ崎のみなさんと5年間共に、生活をさせていただき、数多くのまじごころに触れ、感謝の思いで一杯です。

日々、仕事の中で皆様から頂いた「人と人とのふれ合いの大切さ」「助け合いの大切さ」「団結の大切さ」を、身を持って教えてもらったことを心に刻み日々精進し働いております。

中でも、空き缶収集の仕事に同行させてもらった時、缶

の取り方・場所・潰し方・地域の生活者への配慮等、数多くのルール、マナーが有る事にびっくりに致しました。また、廃品利用等、環境にやさしく無駄のない生活をされておられる方もいらっしゃいます。

私はそんな釜ヶ崎が大好きで、月に1〜2日は里帰りさせて頂いております。

52年前、愛染橋病院で生まれ、父の他界でお袋の実家松原市で生活をしていましたが、再び仕事で帰れた釜ヶ崎、皆様これからもよろしくお願ひ致します。

### 和田より

中尾さんは熱血漢です。お互い酒飲みですが、会うといつも釜ヶ崎の仲間たちの心配をしてくれます。一方、娘さんの貴ちゃんも正月の越冬闘争、夏祭りにひき語りの歌で出演しています。来年の正月も又出演してくれるでしょう。

## とくそうから。生きてりやいさ

トクソウの藤本です。今年の夏は、まれにみる暑さでした。僕も調子がおかしくなりました。急に秋がきました。が、考えさせられました。まず一年通じて、水分補給がだいじだとおもいました。夏の仕事の休憩には、スポーツ飲料がないとやっていけない。あと、おもうのが風が吹くところで休む。冬は、風邪で熱がでたりで、水分補給しなれば、脱水症状がとっても怖いもの。と気づかされました。

この夏熱中症で倒れた人は、仕事はじめに違う方向に入ったりおかしい行動があったら、急いで目もむいてたおれました。すぐに救急車に電話しました。その間、氷で脇首、をひやしました。すこしおちついていましたが、救



◀藤本さんの旅・宮古島

▲藤本さんの旅・屋久島

急車がきたのでタンカーにのせるため、氷をとったら、また、けいれんがはじまり目もむいていました。入院して多臓器不全といって危ない状態でした。しかし持ち直し意識も回復されました。この方は、お酒がすきで、水分補給は、ほとんど取らない方でした。冬もお酒で水分がうばわれ脱水状態で凍死する。とが、おこっています。夜寝る前に水分補給が必要かなと思ひます。

### 生きてりやいさ

生きてりやいさ つらくても  
 生きてりやいさ 元気によ  
 つか いい日が くるだろう  
 親にもらった この命  
 むだには、せんさ 生きていく

飲めたらいいさ 自由によ  
 飲めたらいいさ 気楽によ  
 唄を うたえば思ひ出す  
 捨てたわけでは、ないけれど  
 いまでは、遠いふるさとよ

生きてりやいさ 寒くても  
 生きてりやいさ 春がくる  
 人と同じじゃ いきられぬ  
 幸か不幸か 生きている  
 いろいろ あるさ 人生は

稲毛信男(詞)

昨年トクソウで働いていた方です。藤本さんが曲をつけて歌っています。

### 松ちゃんのうた

嬉しくて 嬉しくて 笑ってる  
 嬉しすぎて 嬉しすぎて 笑ってる  
 髪さんも 額君も 笑ってる  
 瞳さんも 鼻君も(おかしすぎて)笑ってる  
 鼻君も 口さんも  
 みんな ゲラゲラ 笑ってる  
 御手さんが 口を押さえて 笑ってる  
 なんともならぬ  
 なんとかなるよ



### 和田より

松ちゃんとは二十年のつき合いです。彼はカン集めしながら頑張っています。同じ酒飲み友達で、知ってる人は知っていると思っけど、メチャ将手が強いのも温厚な人間です。

### 編集後記

ある人から頼まれ、和田さんの通信を手伝うことになりました。復刊にあたって、和田さんのインタビューを提案。お話の中で「人生のモットーは、ええかげん」と大笑いされる笑顔をすてきなこと。通信のタイトルは「ええかげん」と「釜ヶ崎」をかけて「エエカマ」を思いつきました。これから寒くなりますが、みなさん、おからだに気をつけてください。(か)

# えええ たね

創刊記念インタビュー  
工エカマ発行人・和田富夫さん

「僕は堺ばっかり行きよった。空の自転車で二時間半から二時間くらい。一番うけ取ったんは117キロ。そんな夜はハウスの裏とか墓地とかに隠して、朝を待ってからの帰りも運ぶよった。」

今年9月も終わりのある日の午後、よく陽に焼けた和田さんの声は高くなった空にも届きそうだった。和田さんの「缶集めは楽しんでないよ、えらい」と話してもぜんぜん辛気くさくならない感じがとても素敵で、缶を集める行く先の奥さんたちが、ビールを冷やして和田さんを待っていたという話も、なんだか想像に容易い。

そんな汗っかきの和田さんが、奥さんたちの間でハンカチ王子と呼ばれていたかどうかは定かでないが、缶集め界の風雲児であったということに間違いはない。

和田さんは過酷な缶集めの合間を縫って「アルミ缶の詩」というフリーペーパーを創刊した。その内容は、境遇を同じくする同士たちへの愛に溢れ、缶集めに縁のない私でさえ感動を覚えた。

その後も「缶集めは僕の天分」と言い切れる和田さんだからこそ続いた「アルミ缶の詩」だったが、残念ながら昨年3月、缶を大量に積んだ自転車で横転した際

の大きがよって、缶集めの暮らしと共にその幕を閉じることになった。しかし、そこは雑草のようになじぶとい和田さんそのまま大地に埋もれることはなかった。傷も癒えてしまふはずと、和田さんはまた新しい詩を口ずさんでいた。「生活保護にあがった僕がまた、フリーペーパーをやるやなんておこがましい気もするんやけど…」と、心底申し訳なさそうにしている和田さんを見てたら「ビールを差し出す奥さんの気持ちになっちゃった。」

そこで見えないエプロンで手を拭い、改めて和田さんに聞いてみる、今の釜ヶ崎について…。

「もう終わったなあ、わったなあ、いうんがす



べてやるなあ。世代交代ができてない?」「ぜんぜんできてない。ほんで横のつながりものうなった。特に歳をとってからここに入ってくるようになんとは、ひとと接するんが嫌いなかなあ、こころいひのひとらとの付き合いができへん。若いひとらもそのへんは同じ、仕事終えたらさようなら。寂しい話や。和田さんが日雇いしてた頃は?」「僕らのときは、そらトラブルもようけあったけど、つながらなくてもあった。そしたら和田さんもう缶集めに

ついて書くのはおこがましいって言ってましたし、エエカマはそのつながりを作るお手伝いをしたらええかま?」「そやねん。それやねん。僕の友達も今ではみんな生活保護をもうてるんやけど、僕の知っとるかぎり今年だけでもう4人も死んでるんよ。それ全部あてで知った話や。親しゅうしとったのにわからなで、なんじやるなあていう感じ。前はつながりがあったのに生活保護をもらいだしたらぜんぜん出て来へん。4人のうちの2人は、4月に天王寺公園で花見した時におったのになあ…。」



優しく垂れた目を細め、そのとき和田さんは桜の匂いを嗅いだのかも知れない。だけど私を感じたものは、和田さんの汗からは漂うひとの匂い。和田さんの横顔が釜ヶ崎に種をまく花咲いさんに見えた。

インタビュー：安藤久雄

## 午前7時。けたたましく目覚ましが鳴る

今日は面接の日だ！

昨夜遅くまでかけて書いた履歴書をもう一度確認する、相交わらずの醜い文字だ。これは今更どうにもならない！誤字は無いし・・・これで良いか。

添付した写真を確認。少しニヤケタ顔だがこちらもどうしようもない、それにしては老けたなア(もうつす、56歳になる)写真を見ながら苦笑する。

顔を洗い、コーヒーと買い置きしていたパンで朝食をすましながら、履歴書を封筒に収め、ペンとメモ用紙・印鑑・身分を証明する健康保険証を上着のポケットに。

今日の面接会社、「〇〇警備保障」迄の道のりを地図で確認、私の家から地下鉄を使って30分ほどで行ける、面接は10時から9時に家を出れば十分間に合う。

私が今回、就職活動をする経緯はこうだ、20年ほど前から「〇〇機械設備」の派遣社員で仕事をしていたが、長引く不況のせいか？今年6月から仕事が途切れ間もなく10月になろうとしているのに一向に仕事の依頼がなく、蓄えも底をつき仕方なく求

職活動をするに至った。

ここ数年着る事がなかった背広に腕を通し、十数年ぶりにネクタイを締め鏡でチェック。最近出てきたお腹のせいかな？腰回りが少し窮屈だが・・・久しぶりの背広姿も良いものだ笑い。

忘れ物はないかも？一度持ち物のチェックをして家を出る。地下鉄の乗り換えもスムーズだったので、〇〇警備保障へ着いたのは9時40分、少し早いが、思い切ってドアを開ける「すみません昨日お電話いたたき今日面接に参りました。軽く頭を下げ挨拶をします。人事担当の〇〇です」中から出てきたのは30位の男性、「おはようございます」改めて挨拶を交わして持ってきた履歴書を提出し、玄関横の応接間に案内され簡単なアンケートを記入



(住所氏名・緊急連絡先・健康状態・週何日出勤可能か・・・)アンケートを記入後、面接が始まった。少し緊張気味だが、面接官の質問(今回就職活動

の動機・当社を選ばれた理由・経験の有無・等正直に答え、最後に質問はないですかと聞かれたので、「この年齢で就職活動も難しくなります、なにぞ宜しくお願ひします」とあいさつをして40分程で面接が終わった。

今回の募集は3名、5時まで面接をして決めるそうだが、採用の場合6時まで連絡するとの事なので、家に帰り連絡を待つことにした。

午後5時過ぎ、携帯に1本の電話が「〇〇警備保障」からの電話だと思っ電話を取ると、6月から仕事の依頼がなかった「〇〇機械設備」から仕事の依頼の電話、なんと悪いタイミング・・・返事を明日まで待ってほしい電話を切るが、6時過ぎても話かかってこない、今回は不採用のようだ少し落胆したが・・・内心ホッとしたのが本音だ。

今回のことで、何もしず待っていても何も変わらない、「勇気をもって新たな一歩を踏み出すことが大事なんだなあ」と痛感した一日でした。(滝本)

◆おやの話(63)◆  
釜ヶ崎で長い間商売してると、色々な労働者の人に会える。毎日顔を見せる人も何人もいるんやけど、そんな人がふつとこない日はちよっと心配になる。「エッ昨日来たんかなどしたのかな」と思ってしまふ。ここで商売してるから、色々な人に会えるからこちらも元気がおれるんかなー。

◆はやの話(63)◆  
最近アルミ缶も少なくなっどこの家庭も大変やな。実感としてわかるわ。値段も安いしこつちも大変や。月5、6回の特別清掃(特掃)とアルミ缶の回収で頑張るしかないんやけど、いつまで頑張れるんやろか。プライドがあるから炊き出しのお世話にはなりとうないし・・・。

◆和田より◆  
生活保護(居宅)受給にはもちろんプライドがあると思っけど、軽い仕事(パート)等で働きながらいくらかずつでも国(市)にお返ししながら足らずを援助してもらったらどうなかな。公共工事が良かったのか悪かったのか分からへんけど、少なくとも、若い時原動力発電所や砂防工事等で頑張っ国に貢献して来たのは確かかなんやから・・・生懸命働いて来たんやから……。



か悪かったのか分からへんけど、少なくとも、若い時原動力発電所や砂防工事等で頑張っ国に貢献して来たのは確かかなんやから……生懸命働いて来たんやから……。